

- 西東京市では、木材利用を推進し、森林の整備及びその促進を図る方針。
- 令和 7 年度は、学童クラブに国産木材を使用した什器を設置した。

事業内容

学童クラブ整備事業

田無柳沢学童クラブの 1 階及び 2 階に国産の木材を使用した本棚とランドセルロッカーを設置。

【事業費】 6,037 千円（うち譲与税 6,036 千円）

【実績】 本棚 1 台

ランドセルロッカー 4 台

（ランドセルロッカー①）



（ランドセルロッカー②）



（ランドセルロッカー③）



（ランドセルロッカー④）



（本棚①）



基礎データ

①令和 7 年度譲与額：24,505 千円		②私有林人工林面積（※ 1）：0ha	
③林野率（※ 1）：0.6%	④人口（※ 2）：207,388 人	⑤林業就業者数（※ 2）：2 人	

※ 1：「2020 農林業センサス」より、※ 2：「R2 国勢調査」より

東京都 西東京市（自治体間連携による環境学習）

- 西東京市では、市の大部分が市街地であるため、身近に森林がなく自然に触れる機会が少ない。
- このため、友好都市であり林業が盛んな山梨県北杜市と連携し、市のこどもたちが森林の見学・体験学習を通して、森林管理の重要性、林業の役割、森林と地球温暖化の関係などを学ぶことを目的として、体験型環境学習を実施。

□ 事業内容

北杜市環境学習親子ツアー

市内在住・在学の小学1年生から6年生までの親子を対象に、友好都市の山梨県北杜市で、二酸化炭素の吸収源となる森林の整備の重要性などを学習していただく、北杜市環境学習親子ツアーを開催した。

【事業費】393千円（うち譲与税301千円）

【実績】令和7年11月29日（土）

市内在住の小学生及び保護者 18組36名参加

北杜市親子 24名参加

□ 取組の背景

西東京市と北杜市は平成17年11月1日から友好都市として交流しており、森林環境の豊かな北杜市では、こどもたちに自然の大切さや森林の役割を知ってもらうため、さまざまな体験プログラムを行っている。そこで、森林環境の保全や森林と地球温暖化の関係などを学ぶことを目的として、両市で連携して環境学習を実施することとした。



（森林伐採見学）



（にしとうきょうの森で
記念撮影）



（体験学習の様子）

□ 工夫・留意した点

- ・令和7年度より森林整備協定を締結し、身近に感じてもらえるよう協定森林を「にしとうきょうの森」と名付け、現地で森林伐採等の見学を実施した。
- ・森林伐採現場の見学を取り入れたことで、自然のダイナミックさを感じてもらい、関心を持ってもらえるよう工夫をした。
- ・実際に木に触れてもらうため、間伐材を使用した木工時計づくりを実施した。
- ・木工時計づくり、ほうとうづくりについては、北杜市の親子とふれあいながら体験を行った。

□ 取組の効果

- ・参加者にはアンケートの回答を依頼した。全体を通しての満足度が高く、「普段の生活では経験できない貴重な機会だと感じた」、「カーボンオフセットという、今後さらに注目される考え方について、子どもが少しでも関心をもって、自分の日常や、日本や地球の森林とのつながりを意識してくれたらうれしい」といった意見があり、森林やカーボンオフセットへの興味・関心、意識向上もみられた。
- ・森林の役割や地球温暖化対策など、深く考えるきっかけを提供できた。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：24,505千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.6%	④人口（※2）：207,388人	⑤林業就業者数（※2）：2人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 西東京市では、「ゼロカーボンシティ」を宣言し、温室効果ガス排出量ゼロを目指している。
- このため、友好都市であり林業が盛んな山梨県北杜市と協定を締結し、北杜市が所有する森林を整備することにより、森林が有するCO₂の吸収価値を創出し、西東京市が排出するCO₂の埋め合わせを行うカーボンオフセット事業を実施した。

□ 事業内容

友好都市と連携した森林の整備及び保全

- ・ 森林整備に関する協定を締結
- ・ 山梨県北杜市の森林にヒノキの苗を植樹

【事業費】 2,742千円（うち譲与税2,741千円）

【実績】 整備面積 約1.2ha

□ 取組の背景

・ 西東京市では、令和4年2月に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指している。この取り組みの一つとして、森林環境譲与税を活用して、山梨県北杜市と協定を締結し、北杜市が所有する森林の整備及び保全を行っている。

□ 工夫・留意した点

- ・ 友好都市として様々な交流がある北杜市で事業を行っている。
- ・ 南アルプスや八ヶ岳を望むことができるロケーションの森林を整備することで、行ってみたいと思わせるような場所を選定した。
- ・ 看板は子どもたちにも「西東京市」のものであることが一目でわかるように、マスコットキャラクターである「いこいな」を使用した。
- ・ 植樹式では記念植樹として、市の木である「けやき」を植樹した。

□ 取組の効果

- ・ 北杜市の森林整備に寄与することができた。
- ・ 森林整備区域を活用した林業体験や教育活動など、西東京市と北杜市における環境に関する交流事業の実施を行っている。
- ・ 森林整備の重要性やカーボンオフセットといった取組を市民に周知することができた。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：24,505千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.6%	④人口（※2）：207,388人	⑤林業就業者数（※2）：2人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



（植樹式の様子）



（森林整備看板とロケーション）

- 西東京市では、幼少期からの環境学習に力を入れている。
- 木材利用、普及啓発に向けた取組として、令和7年8月から出生児に進呈するため、多摩産材を使用した木製玩具を製作した。

□ 事業内容

出生児への地域産材を使用した木製品の進呈

「木育」の取組として、木の手触り、香り、ぬくもり、質感などを感じてもらい、木に親しむ心を育てるため、多摩産材（ヒノキ）を使用した木製玩具（バランスゲーム）を誕生祝い品としてお渡しする。

【対 象 者】 令和7年4月1日以降に西東京市の住民基本台帳に登録される出生児

【事 業 費】 7,242千円（うち譲与税7,242千円）

【実 績】 バランスゲーム 2,000個

□ 取組の背景

西東京市では幼少期からの環境教育に力を入れており、出生児に木製玩具を進呈し、身近に木材に触れていただくことで、「木育」の取組になるとともに、普及啓発にもつながるため、森林環境譲与税を活用し本事業を開始した。



（バランスゲームと箱）



（ピースと箱は多摩産材であるヒノキを使用）

□ 工夫・留意した点

- ・市のマスコットである「いこいーな」のピースを作成した。
- ・市内の公園に生息する植物や鳥、昆虫をモチーフとしている。
- ・木材が伐採されるまでのCO₂吸収量を玩具（ピースを入れる箱）に印字して見える化している。
- ・バランスゲームではあるが、木のピースを持ったり触ったりするだけでも、安全に木のぬくもりに触れることができる。
- ・誤飲などを防ぐための安全基準に則り、ピースの形状や大きさとしている。

□ 取組の効果

- ・幼少期から木製品を身近に感じてもらうことができる。
- ・木製品の良さを感じることで、木材利用の促進などにもつながることが期待できる。
- ・木材が伐採されるまでのCO₂吸収量を玩具に印字して見える化することで、環境問題への意識醸成にもつなげることが期待できる。

◇ 基礎データ

①令和7年度譲与額：24,505千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.6%	④人口（※2）：207,388人	⑤林業就業者数（※2）：2人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より